

4月から生命保険料が値上げ

●生命保険商品、4月の値上げが本格化

マイナス金利政策の影響により、生命保険各社は今年4月から、生命保険商品の値上げや販売停止を実施することが予定されています。

すでに保険料の値上げや販売停止を始めている保険会社もあり、4月以降はさらにその動きが広がる見込みです。今回は、生命保険料値上げの背景や対策などについてみていきます。

●金利低下による運用利回りの悪化が要因

生命保険各社が保険料を決める要素は、保険会社共通の「生保標準生命表」から、年齢・性別ごとに死亡者数が算出されている「予定死亡率」、将来支払う保険料を積み立てる運用収益の見込みである「予定利率」と、人件費や物件費など保険会社が業務を遂行するために必要な費用の割合である「予定事業費率」の3つです。これらを踏まえ、契約者が支払う保険料が決定されています。

近年の金利低下に加え、2016年1月の日銀によるマイナス金利政策の導入に伴い、2017年4月には標準利率が1.00%から0.25%に引き下げられます。今回の保険料の値上げや販売停止の動きの背景には、こうした金利の低下があります。

保険会社は、将来の保険金の支払いに備え、一定の資金を運用し、積み立てておく必要がありますが、大幅に金利が低下したにも関わらず、これまでの予定利率のままで保険料を計算すると、積立金の残高が減り、将来、保険金を払うために法律で決められている積立残高(責任準備金)を維持できなくなるので、契約者からの保険料を引き上げることになります。

●保険料の値上げ幅は1~2割程度

では、どのくらいの値上げが行われるのでしょうか。個人保険・個人年金保険の予定利率を4月から引き下げると

ともに、一部保険商品の保険料を値上げすると発表している大手保険会社を例にみると、学資保険や年金保険(払込期間20年以下)の予定利率は、0.5ポイント、払込期間が20年超の年金保険は0.3ポイント引き下げられ、いずれも0.85%に。

併せて、毎月支払うタイプの学資保険や年金保険、終身保険などの保険料を引き上げ、年金保険は平均で約3%、終身保険は平均約20%値上げされる予定(利率は2017年2月2日現在のもので、最新のものと異なる場合があります)です。

貯蓄性の高い商品は、すでに販売停止している保険会社もあり、運用環境の変化によって、今後も改定の動きが広がるとみられています。

●まずは予定利率の確認を

保険料値上げのタイミングは、生命保険各社により異なりますが、「高くなるなら今のうち」と急いで契約するのはあまり得策ではないようです。

保障額を上げる、またはより有利な特約に変更するなら値上がり前に、と思われがちですが、まずは現在、加入している保険の内容や、予定利率を確認することが推奨されます。多くの場合、予定利率については現在加入中の保険の方が高く、新たな商品では予定利率の下がった契約を結ぶことになるといわれています。

また、2018年以降に予定されている「生保標準生命表」の改定では、長寿化による死亡率の低下が反映され、掛け捨ての死亡保障商品(定期保険や収入保障保険など)は、保険料が下がる見込みがあるようです。

さらに、商品によっては、公平性を保つため、加入時期による保険料の差を配当で調整するものもあり、今回の値上げについても、衝動的に行動するよりは、自分に合ったプランや保障内容により、解約や契約のタイミングを検討した方がよさそうです。

COFFEE BREAK

花粉症の最新対策グッズ

気候がよくなり、春の訪れを実感するこの時期。桜や菜の花など、自然の彩りが鮮やかになる一方、花粉症の方にはつらい季節でもあります。花粉症対策といえば、マスクやメガネが基本ですが、最近には実にさまざまな対策グッズが登場しています。たとえば、吹き付けるだけで花粉やホコリをブロック



する食品成分のスプレー、食べることで免疫機能をアップする乳酸菌タブレットや、首から下げて周囲の花粉やウイルスの活動を抑制するタイプ等々。マスクを嫌がる小さなお子様や、大人でもマスクをしづらいシーンがあるので、ライフスタイルに合わせて適材適所のアイテムを選びたいものです。